

市政に対する

一般質問

今定例会では、14人の議員が6月2日、5日、6日に一般質問を行いました。質問の中から、主なものを質問者順に掲載します。

一般質問とは、議案と関係なく市の行政事務の状況や将来に対する方針などをたずねるもので、市側は、質問に対し基本的な考え方や問題解決策について答弁します。

芦葉弘志議員

- 子育て支援に関わる、子ども医療費について
- 交通難民をなくす施策について
- AEDの屋外設置について
- 自転車ヘルメット努力義務化について

坂本達夫議員

- 中川崎、下川崎の道路事情について
- 市役所入口交差点、右折禁止解除の進捗状況と市の方針について
- 幸手駅西口の道路整備、駐輪場整備とにぎわいづくりについて
- 幸手駅に設置したピアノについて
- 木村純夫市長の任期満了について

藤沼貢議員

- 人口減少問題について
- 幸手駅西口のまちづくりについて
- 施設園芸トレーニングセンターについて

宮澤大地議員

- 幸手市の交通安全意識について
- 幸手市の防犯対策について
- 幸手市を特集した「出没!アド街ック天国」放送内容について

大平泰二議員

- 市民生活を支える市内循環バス問題
- 水道・下水道還付・充当の不備問題
- 駅西口土地区画整理問題
- 通学路の横断歩道橋の安全性について
- 若者が集える街づくりについて

小泉圭司議員

- 幸手市の公共交通について
- “とねっと”の事業終了について
- 小学校の統廃合計画について
- 市内の慢性的な渋滞の解消による安全確保について
- 水害対策の資産の垂直避難について
- 民間との協働の在り方について

高野優一議員

- 健全な財政運営について
- ふるさと納税による寄附の拡大について
- 地域農業の推進について

本田謡子議員

- 選挙公報について
- 公共施設における自動販売機設置について

小河原浩和議員

- 駅ピアノの早期実現について
- 移動販売車の必要性の高まりについて
- 地域猫の現状や今後について

四本奈緒美議員

- がん対策について
- 自主防災組織のSMSを活用した情報の一斉送信システムへの補助金について
- 朝日バスの運行廃止と今後の公共交通について

青木章議員

- ゆめファーム全農について
- 天神の湯等の対応について
- 市長公約について

小林英雄議員

- 安心安全なまちづくり（交通安全対策）について
- 安心安全なまちづくり（防犯のまちづくり）について
- 市道の整備と維持管理について

松田雅代議員

- 利便性の高い公共交通の推進について
- 連携協定等対外連携の確実な更新について
- クールスポットの設置について

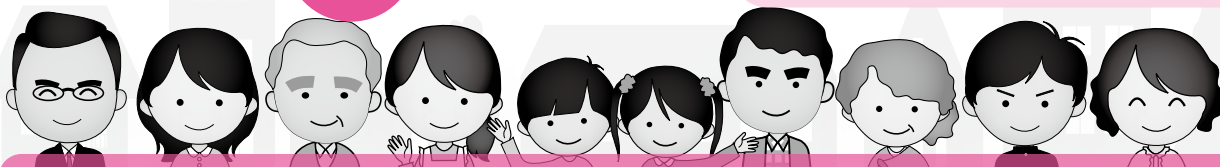
木村治夫議員

- 空き家バンク実施事業について
- 地域農業の振興について
- 地域資源を活かした観光・地域振興について

あなたの声

9月定例会
のお知らせ

詳しくはホームページを
ご覧ください。



幸手市は1人45分の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。議会だよりではスペースの都合上、質疑と答弁が要約してありますので臨場感ある、本会議場での傍聴をお待ちしています。

- それぞれの内容の詳細は会議録および市議会ホームページ（インターネット映像配信システム）でご覧になれます。
- 会議録は図書館、各公民館の図書コーナー、市役所の情報公開コーナー、または市議会ホームページで公開しています。
- 6月定例会の会議録は8月下旬頃公開予定です。

子育て支援に関わる、子ども医療費について



芦葉弘志議員

Q

本年4月1日に、子ども家庭庁も発足し、国の公式ホームページには、「子どもと家庭の、福祉や健康の向上を支援し、子どもの権利を守るための子ども政策に強力なリーダーシップをもって取り組みます。」となっている。又、子ども・子育て支援法では、子どもの定義は、「18歳に達する日以後

A

当市では、子ども医療費支給事業の対象年齢を、現在、入院・通院ともに15歳の年度末までとしている。対象年齢を18歳の年度末まで引き上げることについては、

市の財政負担など、考慮すべき点は多数あるが、子育て支援施策としてたいへん有益と考えるので、できる限り早期の実施に向けて、積極的に取り組んでいきたい。

(市長)

中川崎、下川崎の道路の安全確保を



坂本達夫議員

Q

中川崎、下川崎の道路は、久喜新道方面から旧大宮栗橋線に向かう車と4号線に向かう車が、抜け道として利用しています。このような中で、小学生、中学生、高校生が徒歩や自転車を通います。この道路は、狭く、交通量も多く極めて危険です。市長は、この道路に対し、ど

A

都市計画道路(杉戸幸手栗橋線)を整備することで、交通の分散が見込まれます。しかし、大規模な事業になるため、中川崎・下川崎地区について、現時点では、設計業務は

未実施です。今後、検討していきたいと考えています。

また、通学路等の交通安全対策については、今後も、引き続き、幸手警察署や地域の皆様と調整を図りながら、必要な施策を講じて参ります。

(市長・建設経済部長・市民生活部長)

人口減少問題について



藤沼 貢議員

Q 人口減少の減少をどのように捉えているのか伺う。又人口減少対策にどう取り組まれるのか伺う。

施設園芸トレーニングセンターについて、この施設の事業内容について伺う。

A 令和4年度においては、社会動態は増加となったが、自然動態による減少が上回り、結果として人口減となっている。今後も総合戦略に掲げる取組を着実に進め、既存事業を検証しながら新たな施策も検討していく。

施設園芸トレーニングセンターは、新規就農希望者が栽培技術や農場運営の実践を積むための施設である。神明内地区に大規模温室4棟が設置される計

画となっており、新たな雇用の創出や市の活性化に繋がるものと確信している。

(市長・総合政策部長・建設経済部長)

幸手市発展のための市内プロジェクト



宮澤大地議員

Q 本年3月に幸手を特集した「出沒！アド街ック天国」が放送されました。

その中で幸手は「何かとワースト1位」「消滅可能性都市・幸手」と紹介されてしまい、不安を覚えた市民は多かったかと思えます。

情報を積極的に発信しないという「幸手は何もしていない」と印象付けられてしまいま

す。市民の不安を払拭する好材料として、幸手市の発展に繋がる大きなプロジェクトは計画されていますか。

A 現在、神明内地区では、全農による新規就農者育成のための施設園芸トレーニングセンターの設置構想があります。また、上高野地区には、農業法人の土地改良事業・農業基

盤整備により、大規模な施設園芸農業、道水路の再編、非農用地の創出を行う構想があります。幸手中央地区産業団地に隣接する神扇地区においては、更なる産業団地整備が検討されています。

今後、市の発展に繋がる事業等について、積極的に情報発信を行ってまいります。

(市長)

市内循環バス路線の改善について



大平泰二議員

Q

市内循環バス路線を基本とした往復路の設置と、この間の医療機関との協議の結果、更には香日向から東鷲宮駅までのバス路線を市内循環バス路線に組み入れることについて、朝日バス運営の杉戸高野台駅から幸手駅までのバス路線廃止に伴う同路線に市内循環バスを適用することについて伺う。

A

令和4年1月に運行を開始した市内循環バスに対し、「それまでのデマンドバスにおいて利用の多かった医療機関については、もっと近くに停留所を設置してもらいたい」との要望が寄せられていた。設置により利用者の利便性向上につながるかと判断し、追加する方針を決定し準備を進めている。一方、公共交通全般について、社会情勢の変化等を踏まえ検討していく必要がある、往復路の

設置や民間路線の関係についてもその中で考えていく。
(市民生活部長)



市民にとって重要な足となる公共交通の確保



小泉圭司議員

Q

時代の流れと共に住民の平均年齢も大きく変化しそれに伴い移動先のニーズも変化し通勤での利用が減り、逆に医療機関や役所へのニーズが高まり運転免許証の返納などにより買い物足の確保が必要となっっています。

時代に合わせた主要な目的地を經由するルートに変更又は新規の路線として利用者を増やし継続的に運営していただく方法を提案することは出来ないのか考え方を伺う。

A

現状、幸手市の主な公共交通は、民間事業者が運行している鉄道、路線バス、タクシーと、市が運行している循環バスがあるが、その存在は、人々のライフスタイルの変化や、人口動態、或いは、地域特性の違いなどと密接な関係にありま

す。

このことに加え、運行データや市民のニーズなどを踏まえながら、市では、今年度、地域公共交通計画の策定を進めていきます。その中で、今後の幸手市にとってよりよい公共交通のあり方について検討を重ねていきます。

(市民生活部長)

ふるさと納税の寄附拡大に向けて



高野優一議員

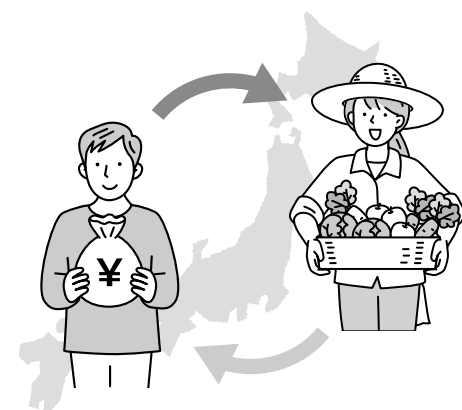
Q 市民サービスの向上の為に自主財源の確保が必要不可欠であり、今まで以上に努力する必要があります。

そこで厳しい財政状況からの突破口としてふるさと納税を大いに活用するべきと考えており、寄附額の更なる拡大に向けた取り組みを伺う。

A ふるさと納税では、ふるさと納税サイトへの掲載を令和元年度から開始し、毎年、返礼品を拡大しており、現在28社、131品目を掲載しています。今年2月からは、仕事や観光で市内に来られる人が、食事等のサービスをスマートフォンで決済できる「ふるさと納税電子商品券」を導入しました。

今後も、寄附者のニーズにあう魅力ある返礼品を増やすほか、企業版ふるさと納税を含め様々な場面で積極的にPRし、納税額の拡大を進めます。

(総合政策部長)



選挙公報の配布は公平なのか



本田謡子議員

Q 選挙公報とは、候補者の氏名、所属政党、経歴、政見などを掲載し、選挙管理委員会が発行・配布するもの。有権者にとって選挙公報は重要な情報源である。さて、選挙公報の新聞折り込み配布は、新聞購読をしない方や折り込みを断る方などが増加傾向にある。そこで、選挙人数と選挙公報折り込み件数、発行数等を伺う。また、現在の問題点や今後

の市の対策を伺う。

A 先般の市議会議員選挙では、選挙人が42,390人、22,493世帯に対し、新聞折込の件数は12,900件。また、新聞を購読していない方に向けて補完措置として市内22施設に440枚を配置した。発行数は1万5千枚である。現在の問題点は『新聞購読率減少』により紙による選挙公報が行き届いていないことである。新聞折込やホームページの閲覧等ができない方に、個

別の依頼に基づき、郵送による配布を、実施に向けて検討する。

(選挙管理委員会書記長)



買い物弱者救済の移動販売車導入の課題は



小河原浩和議員

Q

市街地・農村部を問わず、高齢化の進行とともに公共交通の脆弱さや店舗の大型化・郊外化により、日常のお買い物に不便を感じる「買い物弱者」が大きな社会問題となり、喫緊の市政課題と考える。問題解決の手段として移動販売車の導入を提案したが、導入に向けての市の考え方や課題を伺う。

A

買い物弱者については、環境的な理由や身体的な理由により、移動手段に乏しく、食料等の日常の買い物に困難な状況に置かれており、当市においても一定数いると考えている。そのため、市では市民の暮らしやすい街づくりとして、買い物に困難な方の状況について引き続き分析を行うとともに、今ある地域資源の更なる活用とその周知に努め、より多くの方の困難が解消されるよう、丁寧に検討していきたい。



(市長)

がん患者の気持ちに寄り添うがん対策を



四本奈緒美議員

Q

幸手市においてがんに罹り、患し、治療をしながら仕事や学業を続け、子育てや家族の介護をしたり、また、治療に専念している市民も多い。脱毛や乳房切除など、外見の変化に悩む方への「アピアランスサポート」や、介護保険が適用されない20歳から39歳までの末期がん患者への「若年者在宅ターミナルケア支援事業」等、がんと闘いな

A

から生活をしている市民に寄り添う、優しいがん対策の具体的な実施が必要と考えるが、市長の見解を伺う。

人生百年時代の健康について取り組んで来た。この中には病や障害があっても様々な選択ができ、一人ひとりが豊かな人生を全うできる社会の実現を含んでいる。ご質問をいただいたアピアランスサポートやターミナルケアは、がん患者の方やそのご家族が前向

きに生きていくうえで重要であると認識している。がんを患った方やそのご家族の声に耳を傾け、寄り添った支援や施策を市が実施できるよう取り組んでいく。

(市長)

「天神の湯」早期再開に向けて



青木 章議員

Q

ウエルス幸手内にある「天神の湯」は、平成17年4月にオープンして以来、多くの市民に親しまれて来ました。ピーク時には、年間約10万人の人が利用する人気の厚生施設です。コロナ禍を理由に休館をしている中で、約1千万円の税金を使っている中、約1千万円の税金を使い修繕しました。市長は、この税金を使ったにもかかわらず、本年3月議会に閉館案を提出しました。結果

A

天神の湯については、これまで多岐にわたり修繕を実施してきており、今後も施設の老朽化により、修繕が更に必要となるのが想定されます。この状況を総合的に勘案した場合、天神の湯を存続していくよりも、施設の維持管理に係る費用等を新たな市の施策や既存の事業に

充てていくことが将来的にも有効と考えております。先の議会において、議員の皆様からいただいたご意見を参考に代替案も含め、検討してまいります。

(市長)

「防犯のまちづくり」防犯カメラの必要性は



小林英雄議員

Q

今年5月、北一丁目の住宅で2人組による強盗事件が発生した。(現在も未解決)犯罪の機会を与えない、つくらせない為に市民による防犯パトロール、防犯機器の活用、街路灯の設置等、市としても市民の皆様の協力の元、犯罪をおこさせにくい地域環境づくりをしている。今後犯罪の凶悪化が予想されることから、犯罪の発生場所として注意を用する、被

A

市は、青色回転灯を使用した防犯パトロールや自主防犯団体の活動などの「地域の見守りの目」を、市民の皆様や警察とともに充実・強化し、防犯のまちづくりに取り組んでいる。

防犯カメラについては、犯罪発生の抑止力や、犯罪が発生した際の捜査および犯人の特定に一定の

効果を発揮するものと承知している。一方で、プライバシー侵害や肖像権の問題が発生することが課題となることから、その必要性について調査研究していく。

(市民生活部長)

地域公共交通、近隣鉄道駅も対象に再構築を



松田雅代議員

Q 幸手市域の公共交通は香日向～東鷲宮駅間の路線バス休止、幸手駅～杉戸高野台駅間の路線バスも今年12月の廃止決定と縮小傾向が止まらない。市内外へのおでかけ機会の確保・向上は地域交通の重要な役割であり、市外の鉄道駅とのアクセス確保は住民の強い要望でもある。

幸手市は市循環バスもデマンド型交通も運行区域を市内に限定し

てきた。今後は住民の生活圏の鉄道駅も対象とする公共交通の「リ・デザイン」を進めるべきである。市の対応を伺う。

A 市が今年度策定する地域公共交通計画は、地域にと

って望ましい地域旅客運送サービスの姿を明らかにするマスタープランであり、地域の移動手段を確保するため、市や交通事業者、地域関係者が協議し、公共交通の基本的な方向性や、施策の位置付けを定めるものである。

また、市民の日常生活における移動範囲に伴い形成される生活圏を踏まえる必要があることから、市民の市外への移動についても想定しながら計画を策定することとなる。

(市民生活部長)

地域資源を活かした観光・地域振興策を問う



木村治夫議員

Q 市内の観光名所・観光事業を最大限に活用すること、

これは市経済財政効果を増幅させる重要施策である。(1)本年の桜まつり実地状況また、観光客数・車輛数、渋滞状況は。(2)実施後の経済収支状況、臨時停車駅設置、検討、鉄道事業者との協議等は。(3)保存会との政策協議、協定書の作成は。(4)市観光協会との連携対応等は。(5)市として、地域振興・観

A (1)桜まつりの来場者は約50万人、駐車場利用台数は約5万8千台であり、以前ほどの渋滞はなかった。(2)経済効果等は算出していないが、一定の経済効果があったと認識している。臨時停車駅は、今後鉄道会社と様々な機会でもコンタクトを取っていく。

(3)協定締結に向け、協議を進めている。(4)観光協会や商工会と連携し県営権現堂公園の観光資源とし

光振興についての具体的な活用策・整備計画等、対応施策を伺う。

の活用を図る。(5)年間を通して公園に観光客が訪れるよう、SNS等を活用して情報発信をする。

(市長・建設経済部長)